

## 令和4年度（2022年度）教育局政策プレゼンテーション事業 取組一覧

### ○ 採択教育局と設定テーマ及び取組概要

教育局名	設定テーマ	取組概要
石狩	教育情報の共有による「学校－家庭－地域」の連携強化	取組のテーマを「地域の教育力の向上～教育情報の発信～」とし、石狩管内の多くの方々が教育の動向や将来を生きる子どもたちに必要な資質・能力などについて知り、理解を深めるために、教職員、家庭、地域を対象とした情報発信の充実に石狩教育局の全スタッフで取組む。
宗谷	SOYA未来プロジェクト	管内や道内はもとより、国内や海外で活躍している社会人等からの応援メッセージのほか、この春、管内の高等学校を卒業し、大学等に進学した学生や新社会人からのメッセージを新たに拡充する。 昨年度、応援メッセージ動画の作成に協力していただいた方々と、管内の児童生徒をつなぐ機会等を新たに設定することにより、児童生徒の学習意欲の向上を目指すほか、夢や希望をもち、自らの将来の進路選択の幅を広げる契機とする。
後志	「理解する」から「考え・行動するへ」	今年度は、「ゼロ・カーボン北海道」に向けての取組を実施する。中・高生でチームを作り「ゼロ・カーボン」について学習し、自分たちにできることを考え、最終的に政策提案を行う。 10月に後志総合振興局保健環境部環境生活課担当者による「ゼロカーボン北海道」に関する基礎的な知識を学ぶ勉強会を実施する。 その後、各チームごとにミーティングを実施し、政策提案へ向けて学習や研究を進める。 12月か1月に発表会を実施し、政策提案を行う。
胆振	いぶりLOVEプロジェクト (『いぶり五大遺産』を軸にしたふるさと教育の充実)	ふるさと（地域）を担う人材育成を狙いとした取組を実施 ・ 管内の各市町を学ぶ「ふるさと学習」の成果の発信 ・ オンラインによる地域間交流 ・ 修学旅行生に対するガイド学習 ・ 「ふるさと学習」に係る発達段階に応じた目指す姿の提示
渡島	渡島フロンティア人材育成事業	小・中・高の児童生徒の発達の段階に応じて、ふるさとへの誇りと愛着を育むとともに、未来の社会を生き抜く資質・能力を身に付けた人材育成を目指して実施します。 今年度は、函館市南茅部地区の南茅部小学校、尾札部中学校、臼尻中学校、南茅部高等学校を協力校として指定し、世界遺産であり、地域の宝である「縄文文化」の継承と活用をテーマとして学びを深めます。 実践交流会では、高校生が小・中学生をリードして「縄文文化」の魅力や価値について探究的な学習を行います。
上川	地域企業とwin-winの関係を築くkamikawa未来人（みらいびと）プロジェクト	上川管内では、少子化が進み、各学年の人数は10年前と比べ、約1000人減少し、令和2年度の出生数は約2700人と10年後はさらに約1000人の減少が想定され、これからの地域社会を担う人材育成は急務であり、そうした人材育成のシステム構築は、学校のみにとどまらず、家庭や地域と連携した取組が不可欠である。 そこで、上川管内では、旭川青年会議所や管内の企業等と連携し、高校生と地元企業のリーダーとが街づくりについて協議したり、管内中学校・高校の総合的な学習の時間、総合的な探究の時間を充実させ、地域の課題を企業と協働的に解決したりすることでキャリア教育の充実と魅力ある街づくりのwin-winの関係を構築する。
オホ	オホーツクきゅんとしてGOODプロジェクト	オホーツク管内では、高卒者の管外や道外への流出や高卒就職者の離職が課題となっている。地元オホーツクに対するプラス面・マイナス面双方の現状認識について、他の地域（他管内・道外）の生徒との交流を通じてふるさとオホーツク地域の魅力や強みの再認識や、弱みと考えていたことについて新たな気づきを醸成する。 また、多職種の地元にゆかりのある企業家等から「ふるさとを思いながら働くこと」の学びを通じて、地域への想いを学び、新たな視点で地域に向き合い、見つめ直すことにより、どこに住もうともふるさとオホーツクへの思いを馳せて働いてもらえる「マインド」を醸成する。